

# 曳博だより

December 2012



曳山博物館 〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町 14-8

## 曳山博物館迎春の企画展「蛇の道は蛇」

館長 中島誠一

平成二五年は、辰が去って巳（ミ）、すなわち蛇の年。日本人にとって蛇は親しみのある存在で特に白蛇は家を守る屋敷神として広く信仰されています。また、蛇は脱皮しながら大きくなる、成長を続けていくところから財布の中に蛇の抜け殻を入れておくとお金に困らないなどの俗信を生み出しました。

瑞穂の国近江にとって蛇は恵の水を与えてくれる水神でもありました。ジャやジャーさんなどと愛称で親しまれていますが、その姿は、猪・鹿・蛇それぞれの外見を併せ持つ恐ろしい想像上の動物に仕上げられています。その蛇が昇天して竜となり雨を呼ぶと人々は考えたのです。今回の展示では、蛇



毎年8月15日に長濱八幡宮の放生池で行われる蛇の舞

が湖北の人たちにとってどのような存在であったのかを再考いたしたい

きたいと思っています。

また神話の時代から蛇は重要な存在でした。天上界から放逐されたスサノオノミコトが女装して八つの頭を持つ怪物、八岐の大蛇を退治し、クシナダヒメと結ばれる壮大な浪漫ヒストリーには異形の蛇が最も相応しかったのです。本展示には、その物語を今に伝える芸北神楽の大蛇が登場します。年の初めの目出度さをどうか曳山博物館で満喫ください。

**開催期間** 平成二四年一月一七日（月）～平成二

五年一月二〇日（日）

**展示場所** 一階エアタイトケースならびに二階企画展示室

### 出陳資料一覧

龍図見送り幕

長浜市宮司町

蛇の舞の蛇（一式）

長浜市永久寺町蛇組

蛇頭

米原市磯崎神社

大蛇

芸北民俗芸能伝承館

### 宮川祭と堀田氏

宮川祭はゴールデンウィークの五月三日、四日に行われる宮司町の祭礼です。長浜曳山祭の曳山を建造した藤岡和泉の手がけた神輿と曳山颯々館（さつさつかん）があり、曳山祭と同様、昭和二十七年まで



宮川祭の曳山颯々館（さつさつかん）

は曳山の上で子ども歌舞伎が上演されていました。子ども歌舞伎が最後に上演された昭和二十七年の祭のパンフレットには、役者や三役、外題などと共に、上演場所が図面入りで示されています。それによると、日枝神社と総持寺仁王門、日枝神社御旅所とこれらをつぶ道路の辻2カ所の合計五カ所で行われていたことがわかります。

曳山の背後を飾る雲龍図の見送幕は、坂田郡宮川村（現長浜市宮司町）に政庁が置かれた宮川藩一万石の第六代藩主であった堀田正民が描いたもので、文政一二（一八二九）年に地元宮川村の人々の懇望により揮毫したものです。正民はこれ以前に、文政三年（一八二〇）に子連虎図（長浜城歴史博物館蔵）を描くなど画伎に通じており、その作品は「官司の殿様の絵」として知られています。堀田氏は常府大名（参勤交代せず常に江戸にいる大名）だったため、領主と領民との関係については不明ですが、正民は見送の他にも日枝神社に春日燈籠を寄進し、第五代

藩主の正毅は天明五年（一七八五）に神輿を寄進するなどしていることから、宮川祭を通して藩主堀田氏と地元との深い関係を知ることができます。

また、堀田氏に関しては、堀田正信を領主とする佐倉藩から科せられた重税に苦しむ村民の代表として惣五郎という人物が幕府に直訴し、磔にされたという伝説があり、この伝説を歌舞伎化した農民抵抗の作品である「佐倉義民伝」を宮川祭の曳山で演じることは禁忌とされていたという言い伝えがあります。（大塚）

### 永久寺蛇の舞

長浜の盆行事として定着した感のある永久寺の蛇の舞（長浜市指定無形民俗文化財）、八月一日の夜、蛇組によつて長浜八幡宮の放生池で繰り広げられる厳かで神秘的なこの舞は、以前、永久寺町の八坂神社の弁天池でも舞われていたようです。現在、蛇の舞に使われている蛇は、平成一七年度、文化庁の支援事業によつて制作されたもので、オリジナルは長浜城歴史博物館寄託、一昨年は福井県立博物館の特別展に出陳され、注目を集めていました。

### なぜ蛇の舞？

この長浜市永久寺の蛇の舞について二つの伝承があります。

一つは『長浜の伝承』に記されています。「放生

池に祀られている竹生島の弁財天に奉納される舞です。永久寺から出られた俊蔵院の住職によつて、当院に伝えられていた蛇の舞とその道具が、永久寺の人に引き継がれ、享保の頃から蛇組の人によつて、毎年奉納されています。（中略）

もう一つは『永久寺郷土史』の「嫁が淵」です。「三五〇年ほどむかし、天正のころ住民の井上八右エ門という堂大工によつて、八坂神社が建てられました。その弟子のひとり嫁をもらいましたが、姑との折り合いが悪く、たまたま嫁が機を織っているときその模様をめぐつて口論になりました。ついに嫁が機の糸を切断、家を飛び出し、永久寺河原の水の深い所へ身を投げてしまいました。夫はその後を追いましたが、天上かき曇り、大雨になりました。驚くことにその場で嫁は龍になって昇天したのです。以後、夫は農業に専念し、親孝行に努め世の戒めとして、見た龍の首を刻み、胴体を造り神社に奉納しました。その後、早魃になるとこの龍を舞わずと雨が降った」そうです。（中島）

### 湖畔の村の蛇の舞？

米原町の昔話には「磯村には蛇回しという、変わった祭りがあります。何時まで待っても雨が降らなかつた時、雨乞いをする祭りです。蛇頭は大風の夜、お宮の濱に打ち上げられていたとか、はつきりした

ことは分かりません。蛇頭を出すのと雨が降るとい  
ので、ある時、隣村から借りに来て雨乞いをしたと  
ころ、小雨さえ降らなかつたので頭の実中に釘を  
打ち込み、返しに磯川までくると紐のような大雨に  
なり、ほうほうの体で逃げ帰ったことがあり、以来、  
磯ではまずまず蛇頭に信仰が強くなりました。

雨乞いをするときはまず蛇頭に紅ガラを真っ赤  
に塗りつけ、目と角には金紙を、頭の上の宝珠と尾  
の宝剣には銀紙を貼り、厚手の天竺木綿で幅一・五  
メートル、長さ一〇メートルばかりの胴体を作り、  
鱗を一枚ずつ書いて、尾に宝剣を結び、ぐるぐると  
とぐるをまき社殿に供えます。

真夜中ともなるとのろりのろりと這い出され、琵琶  
湖へ水のみ降りられることになりました。先頭は  
高張り提灯持ち、次は蛇頭持ち、これはすっぽり胴  
の中に入って姿は見せません。

蛇回しが始まると今まで一片の雲も無かつた星  
空が、あら不思議や一点掻き曇りとおりのように



米原市磯の磯崎神社に残る蛇頭

ザーツと降り出します。」

雨乞いの蛇頭は今でも磯崎神社の宝物庫にしま  
われています。箱を取るといつも小さな白蛇がと  
ぐるをまいて、鎌首をもたげているので二度と見る  
勇気はないと言いつづけておられます。「米原の昔  
話から一部省略して紹介」

蛇頭が納められている木箱には「雨請蛇頭入 磯  
崎 庄屋」「文久元（一八六一）酉ノ三月庄屋藤口  
横目喜左衛門」と墨書されており、江戸時代後期に  
は蛇が舞わされていたことが確実です。（中島）

### 芸北神楽

芸北神楽は、島根県西部石見地方と広島県北西部  
安芸地方に受け継がれている石見神楽の一つで、日  
本神話などを題材とした芸能です。田楽系の大元神  
楽をルーツとして出雲流神楽や能・狂言・歌舞伎の  
影響を受けて演劇性を増し、現在の形になったと言  
われています（島根県の石見神楽が広島県北西部へ  
伝わり、こちらを芸北神楽と呼んでいます）。

七座（神楽面なしで舞う、清めや祓いの採物舞（と  
りものまい）と神能（神話劇）が整然と分かれず、  
演劇的要素を強めた軽快かつ激しい舞が特徴です。  
もともとは収穫期に自然や神への感謝をささげる  
ために神社で夜を徹して奉納されましたが、現  
在は文化施設などの舞台上で定期上演が行われてお  
り、年間を通して見ることで見ることが非常に多

くなっています。芸北神楽は北広島では娯楽の代表  
といつても過言ではないくらい人気があり、神楽団  
も六〇以上あると言われています。

神楽のテンポの遅速を表す「調子」には、「六調  
子」と「八調子」があり、明治以前は神主ら神職に  
よる優雅で緩やかな「六調子」の舞が奉納されてい  
ましたが、明治初期に神楽様式の改正が行われ、神  
職による神楽演舞禁止・神懸り禁止により民間人が  
務めるようになってからは激しく速い「八調子」の  
神楽へと変容していきました。

演目は多数有り、娯楽要素の強い華やかな演目が  
演じられることが多く、旧来からある儀式舞・神事  
的演目は廃れる傾向があります。また、各団体が

八岐大蛇（山王神楽団）



独自に創作さ  
れた演目も存  
在します。今  
回展示する大  
蛇が登場する  
「大蛇（おろ  
ち）」は一番の  
花形演目で、  
多くの上演に  
おいて最終演  
目として披露  
されます。（大  
塚）

## ■□平成二四年度曳山博物館子ども歌舞伎 教室発表会■□

「一枝を剪らば、一指を切るべし 忝い。」このセリフにこの物語のすべてが凝縮された、「一谷嫩軍記 熊谷陣屋」を今年度の子ども歌舞伎教室で発表させていただきました。男子六名、女子五名の小学生、さらに、通常、大人がサポートしてきた鳴物も五年生の男子が担当し、総勢一二人の子どもたち歌舞伎という総合芸術を作り上げました。ここでは、そこに至るまでの過程を紹介させていただきます。

七月から始まった稽古では、読み習いといってセリフを声に出して読み、それぞれの役に合わせた言い回しを振付の先生から習います。ここで最初の難関が立ちはだかります。まず、セリフを暗記することです。当たり前のことですが、舞台では台本を見ることはできない



ので、自分のセリフは完璧に覚えなないとけません。セリフは会話ですので、相手のセリフがあつて、それを受けて自分のセリフがあり、その逆もありま

す。ですから、セリフを覚えていない

と何も先に進まないのです。次に、アクセントです。一谷嫩軍記は文楽から歌舞伎になった作品ですので、セリフや浄瑠璃は、上方訛りのアクセントが決まりです。確かに長浜も関西弁の文化圏ですが、アクセントは垂井式と言われる訛りなので、上方訛りとは若干違い、修正するのに先生も役者も苦労しました。次に、立ち稽古が始まり、ここでは所作やセリフを大きな声でいうことにまた骨を折りました。セリフの掛け合い、所作との連動、全身で心境を表現するなど歌舞伎の難しさを体験し、稽古を重ね、ついに一月三日の発表会を迎えました。

当日は早朝より化粧をし、衣装を付けると今までの苦労が少しずつ形になっていきます。いよいよ、刀を差し、持ち道具もつて舞台へ向う姿はまさに役者でした。多くの観客の前でも動じることがなく、しっかりと演じてくれました。観客からの大きな拍手をいただき、これまで子どもたちの苦労が報われました。この拍手こそ最高の称賛であり、事業を主催した我々もとてもうれしい気持ちになりました。ありがとうございました。(小池充)

## ■□『長浜曳山祭子ども歌舞伎フォーラム』を開催します■□

公益財団法人長浜曳山文化協会(理事長…高橋政之)では、来る二月九日に『長浜曳山祭子ども歌舞伎フォーラム』を開催します。今年度当財団では、平成二三年度に完

成した長浜曳山祭の祭礼行事や子ども歌舞伎などの映像記録を活用し、曳山文化の保存伝承および普及啓発に取り

組んでおり、その一環として本フォーラムを開催することとなりました。今回のフォーラムでは、国の記録作成等を講ずべき民俗文化財として選択されている「長浜曳山狂言(子ども歌舞伎)」にスポットをあて、子ども歌舞伎の映像記録である「曳山子ども歌舞伎編」を通して、長浜曳山祭の歴史や文化財としての価値に加えて、「子ども歌舞伎を中心とした長浜曳山祭が持つ社会的価値」や「伝統芸能・行事への取り組みが持つ社会教育力」といった曳山祭が持つ様々な価値や魅力について、各方面で活躍中のコメンテーターの方々による意見交換会を行います。リードコメンテーターには、民俗芸能学会代表理事で、昨年度映像記録作成委員会の副委員長をお務めいただいた山路興造先生、コメンテーターには昨年度曳山祭の芸能に関する共同調査を行なった滋賀県立大学講師の武田俊輔先生、子ども歌舞伎の役者としてのご経験をお持ちの北川陽大さん、長浜市教育委員で翁山の中老でもある桐山恵行さん、昨年まで西中学校校長として伝統文化学習を推進され、現在は長浜城歴史博物館館長の片山勝さんをお迎えします。(中山芳章)

## ■年末年始休館のお知らせ

曳山博物館は二月二十八日(金)～一月三日(木)まで休館いたします(二十八日はくん蒸のため臨時休業)